

2. 私たちの住む街の素晴らしさ

2-1. 六甲山地の豊かな自然の恵み

六甲山地は、豊かな自然に恵まれた緑の森で、四季を通して、私たちを楽しませてくれます。しかし、幕末ごろは白い岩はだばかり見え、荒れ果てた山だったといわれています。現在の緑あふれる六甲山地は、その後、人々の手によって木々が1本1本植えられ、100年以上の歳月によって再生されたものです。今、私たちの目に映る山なみは、かけがえのない財産です。

木々の種類や生き物も非常に豊富であり、古くから六甲山地は登山や散策の場として市民に利用されています。こうした山を散策すると、四季折々の植物などが楽しめます。



2-1-1. 六甲山地の緑



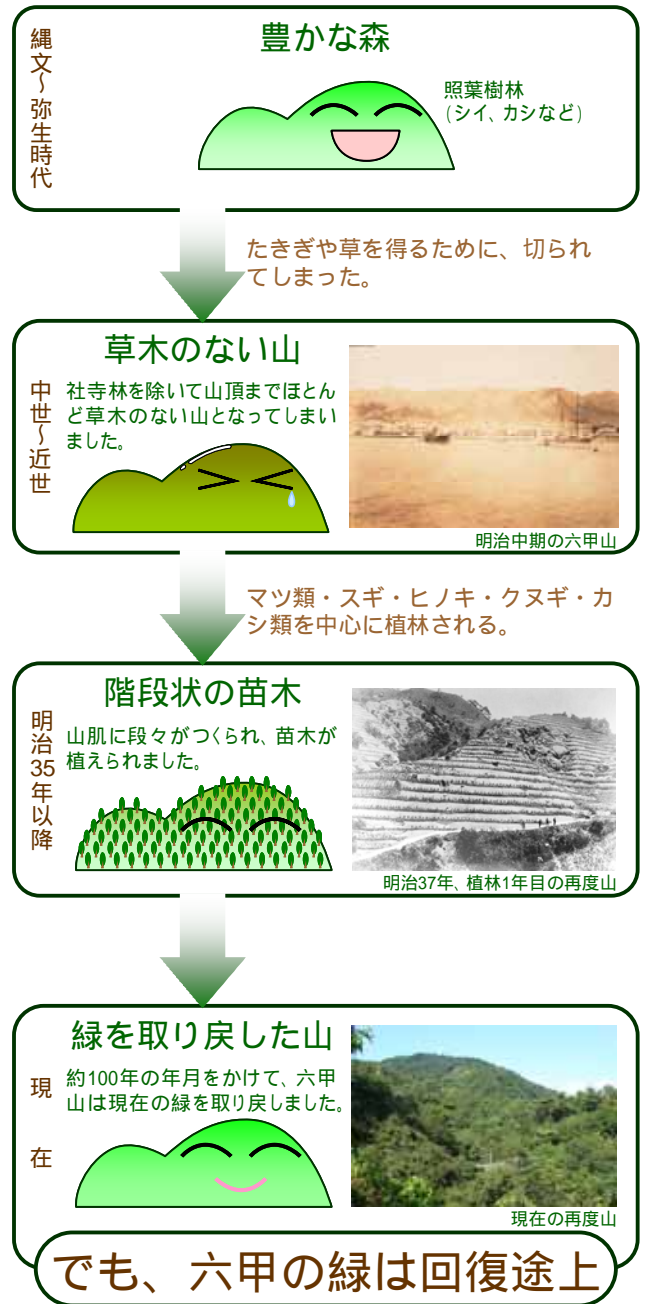
縄文時代の六甲山地の植物は、シイ、カシなどの照葉樹林（つやつやした厚い葉を持つ樹木）でした。

六甲山地は緑豊かな山でしたが、社寺林以外は、薪を得たり草を刈ったりして、自分たちの力ではもともにもどれないほど、樹木が切り出されました。明治初期には地表が見えてしまうほどになりました。もともと崩れやすい性質を持つ六甲山地は、風雨にさらされ荒れ果ててしまったのです。

その後、明治35年（1902年）から始まった緑をとりもどすための工事によって、六甲山地は植物の宝庫となりました。

芦屋川流域周辺では、貴重な植物として、モウセンゴケ、ショウジョウバカマ、ミミカキグサ、ヤマトキソウなどが確認されています。その他にも、六甲山山頂付近のブナ群落やお多福山のススキ・ネザサ群落が現存しています。

これらの植物は、たいへん貴重なので採取はしないでください。



六甲山地の緑の歴史



六甲山地は昔、草木のない山だったって知ってた？

緑豊かな六甲山地は、人口が増えるにしたがって、多くの薪や草が切り出され、草木のない山になりました。その後、明治35年（1902年）から緑をとりもどすための活動が始まり、ヤシャブシ類、ニセアカシア、マツ類、スギ、ヒノキ、クヌギ、カシ類などを中心とした植樹を進め、現在のように緑を回復させています。



イモリ池には、氷河期の植物が残っているんだよ！

イモリ池には、たいへん^{めずら}珍しい植物があります。6月の初めにここを訪^{おとず}れると池の真ん中辺りに点々とサギスゲの白い花が見られます。まるでたくさんの白いサギが舞い降りたように見えるのでサギスゲと呼ばれています。

この植物は、大昔、この辺りが氷河でおおわれていた時代の生き残りの植物で、なぜかサギスゲだけが長い間ここに残ってきました。

近畿地方の自生地^{じせいち}（自然にはえている場所）は、イモリ池の他に9ヶ所だけで、そのうちイモリ池は日本の最も西でサギスゲを見られる所です。



イモリ池



サギスゲ



芦屋市には、サギスゲの他にも多くの^{きちょう}貴重な植物が残っているんだよ！

私たちの暮らす街には、イモリ谷^{いもり}湿地付近のフデリンドウやイモリ池のヒツジグサ、石島池付近のサワギキョウ、黒岩谷のイワカガミ、白山神社の近くのブナの木、他にもギンランなどの貴重な植物が残っています。



フデリンドウ



ギンラン



ブナの木



私たちの街に残る貴重な植物を調べてみよう！！



私たちの街の中には、大昔の林や森が残っているんだよ！

私たちの街は、縄文時代、ウバメガシの林におおわれていました。

阿保親王塚には今でも、立派なウバメガシの林が残っています。そこには、在原業平の父である阿保親王のお墓があります。親王は農民の生活を大切にすることから人々に深く慕われ、ウバメガシは、焼くと備長炭という良質の炭になる木ですが、お墓の一带は「親王の森」として守られてきました。また、親王の名は地名（親王塚町）としても残っています。

岩園天神社は、鎮守社（土地を守る神を祀った神社）として人々によって守られてきたため、大昔の森が残っています。森は照葉樹林でおおわれ、昼でも暗いほどです。

岩園仲ノ池には、ハシビロガモやヒドリガモなどが冬に渡ってきます。この他にも、市内では見られなくなったハッチョウトンボなどの昆虫を見ることができます。また、万葉集にも歌われたマコモを見ることができましたが、近年絶滅してしまいました。



阿保親王塚の森



岩園天神社の森



岩園仲ノ池



ハシビロガモ(左: 、右:)



マコモ(近年は絶滅)



私たちの街には、兵庫県にしか見られない珍しい昆虫もいるんだよ！

私たちの街の山地周辺では、日本では兵庫県にしかいないキベリハムシの他、最近では、あまり見られなくなったミヤマアカネなどの珍しい昆虫が見られます。



キベリハムシ



ミヤマアカネ()



岩園天神社の森の中には、どんな植物があるのか調べてみよう！！



私たちの街の中では、どんな植物が見られるのかな？

芦屋川や宮川では、様々な草花を見ることができます。なお、芦屋川に、もともと多く見られ、その名前の由来といわれる「アシ」は、現在では宮川でしか見られません。

芦屋川や宮川で見られる植物

写真の他、マツヨイグサ、カワジシャ、セイヨウタンポポ、セイヨウカラシナ、ナズナ、ヒメオドリコソウなど

春



オランダガラシ(全体)



ヒナギキョウ



セリ



ヒメゲンバインズナ



オランダガラシ(花)



カラスノエンドウ



セリ(花)



オオイヌノフグリ

写真の他、オオキンケイギク、オオブタクサ、メマツヨイグサ、ヘクソカズラ、ミソハギ、コガマ、ムギクサ、コバンソウなど

夏



マンテマ(全体)



ニワセキショウ



ヒルガオ



ツタバウンラン



マンテマ(花)



マツヨイグサ



アカバナユウゲショウ



ネジバナ

写真の他、セイバンモロコシ、セイトカアワダチソウ、センダングサ、イノコズチなど

秋



イヌクイモ



ミソソバ



アシ(宮川のみ)



アレチヌスビトハギ(全体)



イヌタデ



オギ(芦屋川のみ)



オオオナモミ



アレチヌスビトハギ(花)

山地・^{しづ}湿地・池では、市街地では見られない草花が見られます。

	山地で見られる植物	湿地や池で見られる植物
春	<p>写真の他、クサイチゴ、ウラシマソウ、クマシデなど</p>  <p>イワカガミ</p>  <p>ヤマボウシ(花)</p>  <p>マンサク</p>  <p>ヤマボウシ(実)</p>	<p>湿地や池の草花はほとんどが初夏からしか見られませんが、イモリ谷の湿地周辺では、3月ごろからショウジョウバカマが見られます。</p>  <p>ショウジョウバカマ</p>
	<p>写真の他、サネカズラ、モミジイチゴ、ニガイチゴ、ウスノキなど</p>  <p>ヤマモモ</p>  <p>コアジサイ</p>  <p>ベニドウダン</p>  <p>ササユリ</p>	<p>写真の他、カキラン、ミミカキグサ、ヒメガマなど</p>  <p>トキソウ</p>  <p>モウセンゴケ</p>  <p>サギソウ</p>  <p>ヒツジグサ</p>
秋	<p>写真の他、アケビ、ミツバアケビ、サネカズラ、ツリバナ、サルナシ、アケボノソウ、ナツハゼなど</p>  <p>センブリ</p>  <p>ホツツジ</p>  <p>ナンキンナナカマド</p>  <p>アキグミ</p>	<p>写真の他、キガンビ、ノリウツギなど</p>  <p>ウメバチソウ</p>  <p>サワシロギク</p>  <p>ウメモドキ</p>  <p>サワギキョウ</p>



いろいろな場所で見られる様々な草花を観察してみよう！！

2-1-2. 芦屋川周辺の生き物たち





私たちの街には、どんな生き物がいるのかな？

芦屋川と宮川では、同じような生き物が見られますが、宮川では海水が入ってくることから、特に下流側で違った生き物を見つけることができます。

芦屋川や宮川で見られる生き物

(宮川) は宮川のみで見られる生き物

鳥	<p>写真の他、ゴイサギ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、キジバト、カワガラス、ツグミ、ホシハジロ、ダイサギ、ムクドリなど</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>イカル</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コサギ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>カワセミ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ヒドリガモ:左 アメリカヒドリ:右 (宮川)</p> </div> </div>
昆虫	<p>写真の他、ホタル、ナガメ、ツマグロヒョウモン、アカタテハ、ヒメアカタテハ、キタテハなど</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ヨコツナサシガメ(羽化直後)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ヨコツナサシガメ(成虫)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ヤマトシジミ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アオマツムシ</p> </div> </div>
魚(市街地)	<p>写真の他、コイ、フナ、アユ、ムギツク、ドンコ、ウナギ(宮川)など</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center; width: 30%;">  <p>オイカワ</p> </div> <div style="text-align: center; width: 30%;">  <p>カワムツ</p> </div> <div style="text-align: center; width: 30%;">  <p>ヨシノボリ</p> </div> <div style="text-align: center; width: 30%;">  <p>マハゼ(宮川)</p> </div> <div style="text-align: center; width: 30%;">  <p>ボラ(宮川)</p> </div> <div style="text-align: center; width: 30%;">  <p>スズキ幼魚のセイゴ(宮川)</p> </div> </div>

	山地で見られる生き物	しっち 湿地や池で見られる生き物
鳥	<p>写真の他、ホオジロ、ヤブサメ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ホトトギス、ジョウビダキ、ルリビタキ、ウソなど</p>  <p>シジュウカラ エナガ</p>	<p>写真の他、カワセミ、カイツブリ、バンなど</p>  <p>コゲラ オオルリ</p>
昆虫	<p>写真の他、ミヤマカラスアゲハ、ナガサキアゲハ、アサギマダラ、キベリハムシ、オニヤンマ、カワトンボ、カマキリモドキ、クロオサムシなど</p>  <p>アオバセセリ イシガケチョウ</p>	<p>写真の他、マツモムシ、オオルリボシヤンマなど</p>  <p>ハッチョウトンボ ハッチョウトンボ</p>
魚（渓流）	<p>写真の他、カワムツなど</p>  <p>アマゴ オヤニラミ</p>	<p>写真の他、ブルーギルなど</p>  <p>ブラックバス カムルチー （雷魚）</p>

私たちの街は、まだまだ多くの自然が残っており、様々な植物や生き物が見られます。しかし近年、約10種の植物が絶滅したり、池などでは外来種の魚が放流され、昔から住んでいた生き物の数が減るなど、生態系が変わってきています。



私たちの街や山の自然を守っていくためには、どうしたらいいの？
家族や友達と一緒に考えてみよう！！

2-1-3. 水不足と戦った人々



昔から農業のための水の確保は重要な問題で、私たちの街でも水をめぐって村々で争いが繰り返されてきました。江戸時代には、日照りが続くと神様に雨が降るようにと雨乞いが行われ、芦屋ではこの一つとして、「ふか切り」が行われていました。

「ふか切り」では芦屋の海で魚を捕まえてきて、芦屋川の上流にあるふか切り岩の上で包丁をいれ、流れた血を弁天岩に浴びせました。これは、血で大岩を汚すことで弁天岩の水の神様が怒り、この汚れを洗い流すために雨を降らせると信じられていたからです。



ふか切り岩での雨乞いの図(一部)



ふか切り岩



弁天岩



芦屋神社には、水の神様が祀られているんだよ！

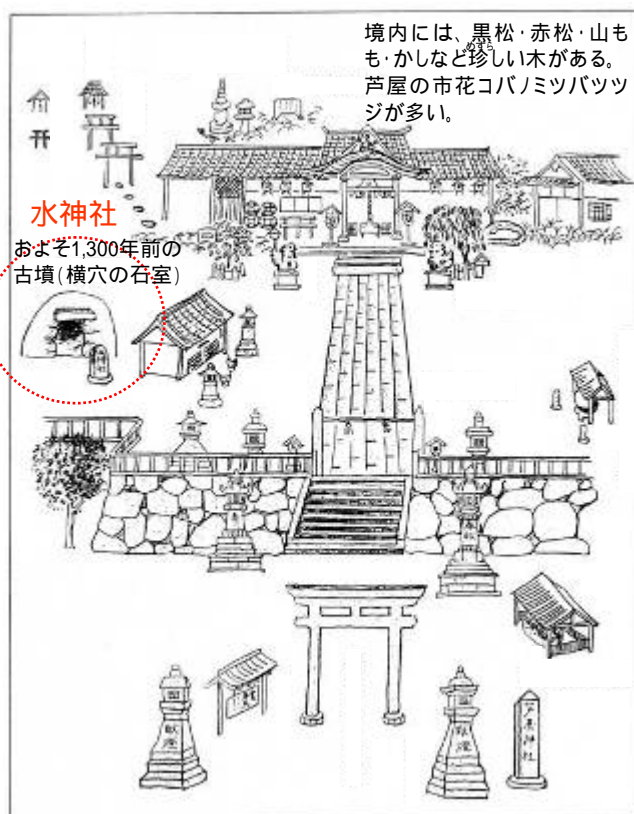
水の神様は、弁天岩に祀られていましたが、明治時代に芦屋神社の境内にある横穴式石室に移されました。入口には

「水神社」ときざまれた石碑があります。

神社の境内は、黒松・赤松・山もも・かしなどの木におおわれています。また、芦屋市の花であるコバノミツバツツジが多く見られます。



水神社



芦屋神社の様子(昭和55年:1980年ごろ)



奥池は、昔の人が造った池なんだよ！

江戸時代から芦屋の村々は、日照りが続くと田畑の水不足に悩み、水争いが絶えませんでした。当時、芦屋村の村長であった猿丸又左衛門安時は、このような争いがなくなるように、天保12年（1841年）から約20年の歳月をかけて奥山の谷を堰き止めて奥池を造りました。以後、水争いが少なくなりました。

安時が池の安全を祈って水神をお祀りした石のほこらが今も池のそばに建っています。また、奥池に隣接して芦屋市民への水をためる奥山貯水池も完成しています。

こうした安時の立派な働きを広く世間や後の時代に伝えるため、阪急芦屋川駅の北にある開森橋に「猿丸安時頌徳碑」が建てられています。



猿丸又左衛門安時



奥池にある石のほこら



東六甲展望台からの奥池と奥山貯水池



猿丸安時頌徳碑



どびわり 土樋割峠でも水争いがあったんだよ！

東お多福山の北にある土樋割峠は、水のわかれる所になっていて、東に行くと芦屋川、西へ行くと住吉川の流れになります。

その昔、水不足に悩んだ芦屋の住民は、この峠に土樋（土管）を通し、住吉川の水を芦屋川の方へ引こうとしたのです。これに怒った住吉の住民が、この土樋を割ったことから、土樋割峠と呼ばれるようになりました。



土樋割峠



民話「どびわり」に水争いの様子が書かれているよ！読んでみよう！！

2-1-4. 市民に親しまれているハイキングコース



マップ 1 5 6 2 3 4

芦屋周辺の六甲山地には、古くから市民に親しまれてきた8つのハイキングコースがあり、経験や体力に応じて、幅広い世代が登山や散策を楽しめます。

また、昔、海産物を有馬温泉に運んでいた魚屋道と呼ばれる道も登山道として利用されています。

ハイキングコースの主な見どころ



- | | |
|---|--------------|
| ① | 東お多福山回遊コース |
| ② | 城山・高座の滝コース |
| ③ | 前山遊歩道コース |
| ④ | 柿谷コース |
| ⑤ | 鷹尾山・荒地山コース |
| ⑥ | 六麓荘・ごろごろ岳コース |
| ⑦ | 高座の滝・荒地山コース |
| ⑧ | 風吹・石宝殿コース |

ハイキングコース図

(平成25年(2013年)3月時点)



ハイキングする時には、注意しなくちゃいけないことがあるんだよ！

- 火を使わない！
- 動物にえさをやらない！
- ゴミは持ち帰る！
- とっていいのは写真だけ、採取しないで観察しましょう！
- マムシ、ヤマカガシ、スズメバチなどに出会ったら要注意！



ハイキングコースを歩いてみよう！！
詳しくは芦屋市案内マップの「ハイキングコース」に紹介してあるよ
(<http://www.city.ashiya.lg.jp/keizai/rokkousan.html>)

2-2. 私たちの街の暮らしの歴史

私たちの街の名前である「芦屋」という地名は、海辺や河口などにある^{あしはら}葦原や^{あしのや}葦屋を意味するといわれていますが、芦屋の地名は、^{まんようしゅう}万葉集や^{いせものがたり}伊勢物語、^{しんこきんわ}新古今和歌集など、^{なら}奈良・平安時代の物語や歌集に登場するなど、古くから知られていました。

また、私たちの街を流れる芦屋川と宮川は、昔から人々の暮らしに多くの^{えいきょう}影響を与えてきました。そのため芦屋川や宮川の周辺には、芦屋の歴史を知るものや民話がいくつも残っており、川に沿って^{さんさく}散策するとそのころの人々の暮らしの様子を知ることができます。

私たちの暮らしている街には、古い歴史を見て、感じて、学べるものがたくさんあります。



芦屋川にかかる^{きんみつ}公光橋付近からの眺め

2-2-1. 遺跡や史跡などが数多く残る街、芦屋



私たちの街に人々が暮らし始めた歴史は古く、原始・古代以来の遺跡が数多く出土しています。

縄文時代

芦屋地域に人が暮らし始め、狩りや植物採集を中心とした生活が行われていたことが、「朝日ヶ丘遺跡」や「山芦屋遺跡」などの出土品からわかっています。

弥生時代

生活の形が狩りや植物採集から農耕中心へと移り変わり、集落も生まれました。

国指定史跡「会下山遺跡」は、高地性集落と呼ばれるもので、山の上に約2,000年前の竪穴住居の他、倉庫や墓・祭祀場（神を祀る儀式を行う場所）などの跡も見つかっています。

現地では、復元された高床倉庫や住居跡の様子などから当時を思いおこすことができます。



市内の遺跡地形触覚模型(朝日ヶ丘遺跡)



復元された高床倉庫



会下山遺跡はどうして山の上にあるのかな？

弥生時代には、日本列島に大陸から米づくりの方法が伝わり、田の周辺に住みつく暮らしが始まりました。しかし、会下山の人々は、なぜ不便な山の上で暮らしたのでしょうか。

このころ、食料が豊かで住みよい土地を求めて、あちらこちらで戦いがあったといわれています。30人ほどが一緒に暮らしていたと思われる会下山の人々は、こうした争いを避けるため、山の上に集落をつくって暮らしていたと考えられます。

また、高台は見晴らしが良く、低地では確認できない敵などの情報を、煙をあげて合図する「のろし」によって、低地の集落へ伝えていたと考えられます。



会下山遺跡に立って、昔の人々の生活を想像してみよう！！

こぶん 古墳時代

前期の古墳には、阿保親王塚古墳（4世紀後半）、中期の古墳には金津山古墳（5世紀後半）、打出小槌古墳（5世紀末）、後期の古墳には八十塚古墳群（6世紀後半～7世紀）があります。

また、古代氏族の系図に、渡来系の氏族である葦屋漢人の名が見られ、芦屋は彼らによる先進文化の地であったことがうかがえます。

阿保親王（8世紀～9世紀）は古い古墳を利用して埋葬されています。



八十塚古墳群(岩園天神社内)



古墳は、昔の人のお墓なんだよ！

古墳時代後期は、通路を通して棺を置く石造りの部屋を持つお墓が広まりました。

この石造りの部屋は横穴式石室と呼ばれ、何度も埋葬ができるお墓でした。やがて庶民にも広まり、八十塚古墳群や城山・三条古墳群のように多数の古墳が造られました。

有力者は、旭塚古墳のように大きな石室をもつ古墳を造りました。旭塚古墳は最近の調査により、古墳の形が多角形で、石の棺を造った跡と考えられる播磨地方の竜山石の破片が多数見つかりました。



旭塚古墳の発掘調査当時
(平成19年:2007年11月)の様子
(巨石で築かれた横穴式石室)

古代

大化の改新で、夙川から生田川までの地方は「葦屋郷」「賀美郷」がふくまれる「菟原郡」となりました。

市内西山町付近には奈良時代（7世紀後半）の芦屋廃寺跡があります。

また、平安時代には、馬が置かれた葦屋駅があり、東西の交通の要所になっていました。

文学の世界では、芦屋は『万葉集』や『伊勢物語』に詠まれ、在原業平ゆかりの地として、また、歌の名所として広く知られるようになりました。



在原業平の歌碑(松ノ内緑地)



私たちの街に残る古墳や遺跡など、昔の暮らしの跡を、たずねてみよう！！

中世

中世の芦屋は、戦いの舞台となりました。大楠公と呼ばれた楠木正成と足利尊氏の打出・西宮浜合戦（1336年）や、若松物語で知られる鷹尾城（城山）の合戦（1511年）は有名です。

戦国末には武士による城山をめぐる争いが起こり、芦屋の農民がみんな避難したことがあります。

こうした戦乱の中、人々は結束を固め、やがて打出、芦屋、三条、津知という4つの村が生まれました。



大楠公戦跡碑（芦屋市楠町）



鷹尾山には昔、お城があったんだよ！

鷹尾山には昔、戦国時代に激しい戦いが繰り返された鷹尾城というお城があって、城山とも呼ばれていました。

平地に大きな石垣を築いた城とは違い、尾根の急な地形を利用して、堀や木のさくなどをめぐらした山城であったと考えられています。

近世

江戸時代に入り、新田開発が活発となり、芦屋は芦屋川などの「水」の恵みをうけ、農村地帯として発展しましたが、芦屋川は急流であるため洪水も多く起こっています。

また、干ばつによる水不足も深刻な問題でした。そのため「水」をめぐる争いがたびたび起こり、雨乞いの習慣が生まれました。今でも雨乞いにまつわる民話や弁天岩、ふか切り岩などが残っています。（37P参照）

幕末のころ、こうした水不足の解消を図るために、奥池が完成しています。（38P参照）



弁天岩

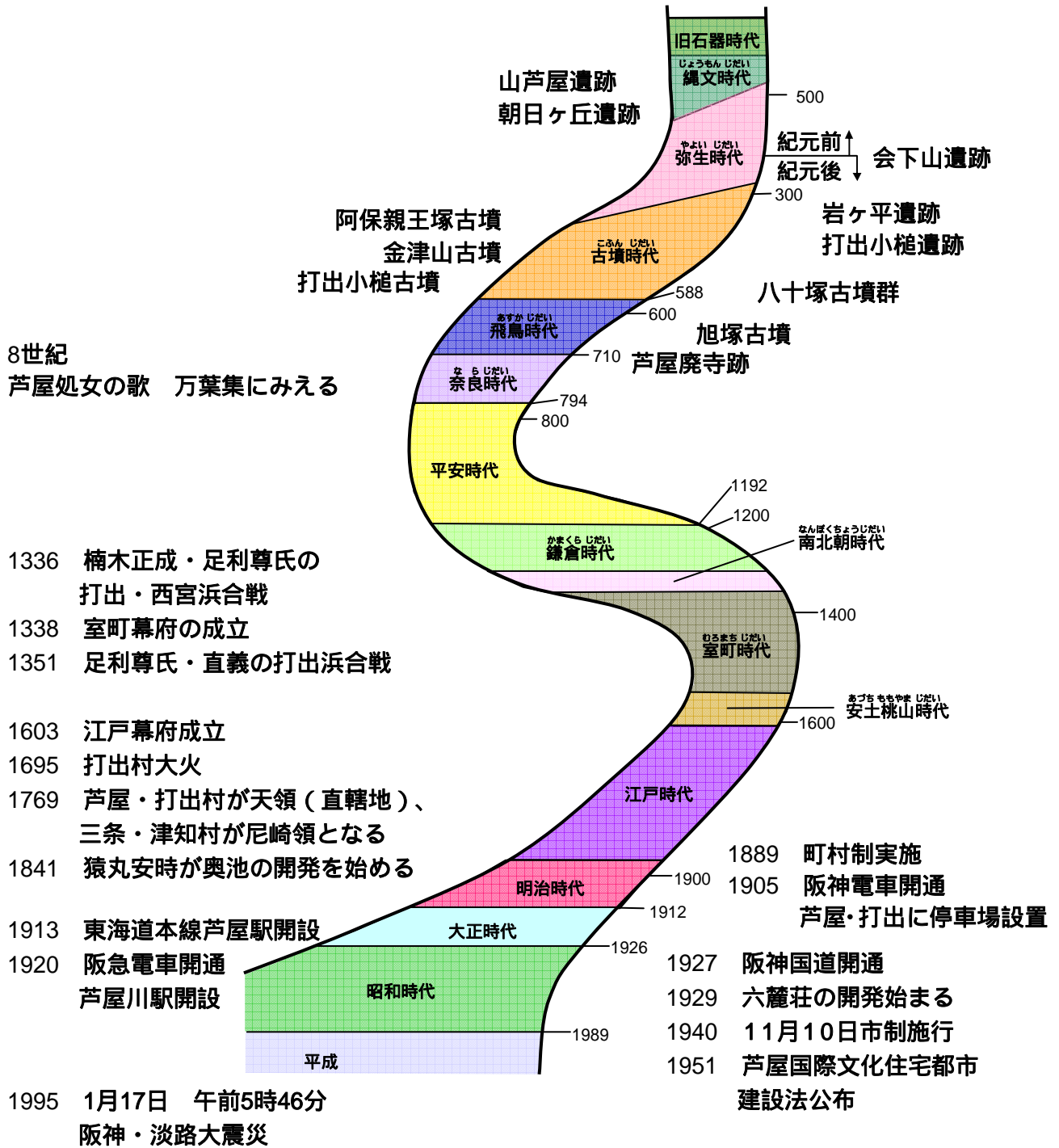


奥池



「芦屋検定」って知ってる？ 平成20年（2008年）2月に第1回が行われ、芦屋の素晴らしさを再認識するための問題が100問出されたんだよ！

芦屋市 - 年表



2-2-2. 街の歴史を語る「民話」



芦屋に伝わる民話は、当時の人々が生活の中で経験した不思議なことや悲しかったこと、うれしかったことなどを、その土地の山や水・塚・人物などに結びつけて伝えられたものです。民話には、時代ごとの背景がよくあらわされ、昔の人々の願いや考え方を知ることができます。

ぬえ塚の怪物

昔、源頼政みなもとのよりまさという弓の名人が、京都の御所ごしよをさわがす怪物かいぶつを討ち取ることになりました。その夜も丑うしの刻こく（午前2時ごろ）になると、近くの森の辺りからあやしい黒雲がわいてきました。頼政は、弓矢を用意して静かに目を閉じて神に祈り、空を見上げると雲の間にあやしい陰かげが見えました。この時とばかりに矢を放つと手ごたえがあり、大きな音とともに怪物が落ちてきました。よく見ると、頭がサル、からだはタヌキ、手足はトラ、尾はヘビという「ぬえ」という妖怪でした。

人々はおどろき、その死体を丸木舟に乗せて川に流したところ、はるか芦屋の浜に流れつきました。これを見た村人たちは、たたりをおそれて、ていねいに塚つかを造ってとむらいました。その後、この塚のことを「ぬえ塚」と呼ぶようになりました。



ぬえ塚



西脇市（兵庫県）にもぬえ退治の話があるんだよ！

丸木舟に乗せられたぬえの死体は、淀川を流れ芦屋の浜に流れついたとされていますが、西脇市にも「ぬえ退治」が伝えられています。



芦屋公園にぬえ塚があるんだよ！探しに行ってみよう！！

業平なりひらと公光きんみつ

昔、芦屋の里に公光という若者が住んでいました。『伊勢物語いせものがたり』がたいそう好きで、業平のことに強い興味きょうみを持っていました。

ある夜のこと、夢の中に美しく咲き乱れた花の中に業平があらわれたので、「ここはどこですか」とたずねると、「ここは京の都の北山にある、むらさき野の雲林院うりんいん」と教えられ夢からさめました。

公光は、はるばる雲林院をたずねていきました。ちょうど花ざかりであったので、一枝を折ったところ、年をとった男の人があらわれて、公光をとがめました。公光は「芦屋の里からたずねて来ました公光というものです。業平さまの夢を見て、ここまで来ました」というと、男は「今夜この花かげで待っていると、伊勢物語にまつわる楽しいお話が聞けるでしょう」といって、夕やみの中に姿すがたを消しました。

その夜、業平の魂たましいが人の姿となって公光の所へあらわれました。伊勢物語のことを話し、舞いや音楽のあそびを続けているうちに明け方となり、同時に、公光の夢はさめました。



雲林院



業平にまつわるお祭りが昔はあったんだよ！

阪急芦屋川駅の南、月若公園の北側の道をすこし西へ行くと、業平と公光の石のほこらがまつられています。近年まで「業平まつり」が行われていて、その日は多くの人がおまいりしていました。



業平と公光のほこら



他にも伊勢物語いせものがたりに由来する地名や場所があるんだよ！探しに行ってみよう！！

2-2-3. 芸術・文化の街



私たちの街には、和の伝統を尊重しつつ、西洋文化を取り入れた「阪神間モダニズム」と呼ばれるモダンな文化スタイルがあります。街の中には、こうした固有の文化を現在に語り継ぐ建築物や美術館、さらに芦屋を舞台に活躍した文学者たちの多くの足跡が残っています。



芦屋と関わりの深い文学作品があるんだよ！

たかはまきよし
高浜虚子 (1874 ~ 1959)
としお ていこ
年尾、汀子

月若公園には、日本を代表する俳人の1人である高浜虚子とその息子の高浜年尾、孫の稲畑汀子の句がきざまれた「三代句碑」があります。

こいでならしげ
小出櫛重 (1887 ~ 1931)

近代洋画史に大きな足跡を残した小出櫛重は、40歳ごろに芦屋にアトリエを構えていました。当時のアトリエが芦屋市立美術博物館の庭に復元されています。また、櫛重は多くの随筆も残し、その代表的な作品に『めでたき風景』があります。その中の「芦屋風景」では、山と海がせまる芦屋の美しい自然や、身近な風俗習慣などをユーモアをまじえて描いています。

たにざきじゅんいちろう
谷崎潤一郎 (1886 ~ 1965)

芦屋を舞台にした谷崎潤一郎の名作『細雪』では、昭和13年(1938年)の阪神大水害による芦屋川・住吉川の洪水の場面や人々の心理などが巧みに描かれています。

谷崎潤一郎は昭和9年(1934年)から約2年間、宮川町に住み『現代語訳源氏物語』などを書きました。開森橋の近くに生誕100年を記念した細雪の碑があります。



高浜虚子三代句碑

復元された小出櫛重のアトリエ
(市立美術博物館内)

細雪の碑



虚子記念文学館や谷崎潤一郎記念館に行ってみよう！！



とみた さいか 富田碎花が住んだ家には昔、たにざきじゅんいちろう 谷崎潤一郎も住んでいたことがあるんだよ！

富田碎花（1890～1984）

詩人・富田碎花は、大正の初めから芦屋に定住しました。そして、詩を作るかたわら全国各地を旅し、長編詩『兵庫讃歌』を発表しました。

また、芦屋の宮川小学校・岩園小学校・精道中学校をはじめ、50以上にのぼる各地の校歌、市町歌を作詞するなど、その多彩な文化的業績から第1回兵庫県文化賞を受賞し、“兵庫県文化の父”と呼ばれました。

富田碎花旧居は、谷崎潤一郎も住んだことがあります。



富田碎花旧居

—西洋文化を取り入れたモダンな建築物—

大阪と神戸の中間に位置する芦屋は、その立地条件と豊かな自然を背景にした魅力ある風土をいかし、全国でもまれにみる高級住宅地として発展してきました。

大阪の商人・神戸の貿易商・外国人などが構えた大きな家やモダンな建物は、今もその姿を芦屋にとどめています。



アメリカ生まれの洋館(山手町)



山のふもとの洋館(東芦屋町)



サンルームのある別荘(平田町)



旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）は、建築家ライトが設計した住宅で
唯一現存する建物なんだよ！

国の重要文化財に指定されている旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）は、大正時代に酒造家山邑太左衛門が、帝国ホテル建設のために来日中のアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトに設計を依頼し、大正13年に完成した建物といわれています。建物は、芦屋川の南斜面を利用した鉄筋コンクリート造り4階建てで、各階に大谷石（宇都宮産）が用いられ、幾何学的な彫刻も見られます。



旧山邑家住宅(ヨドコウ迎賓館)



2階にある応接間



照明器具

幾何学的なデザイン
が施された扉

芦屋川沿いには、個人の住宅だけでなく、市民が利用する建物にも細かな装飾がほどこされた建物が残っており、今では芦屋の代表的な景観となっています。



芦屋カトリック教会



芦屋仏教会館



私たちの街のなかには、滴翠美術館などモダンな建物がたくさんあるよ！
見に行ってみよう！！

2-2-4. 道路の名付け親は市民



私たちの街には、市民から愛称^{あいしょう}を募集し名前が付けられた21の愛称道路があります。

この名前は、いつも通る身近な道に愛着を持ち、美しいまちづくりに役立ち、訪問者にもわかりやすいようにとの思いを込めて付けられました。



どんな愛称が付けられているのかな？

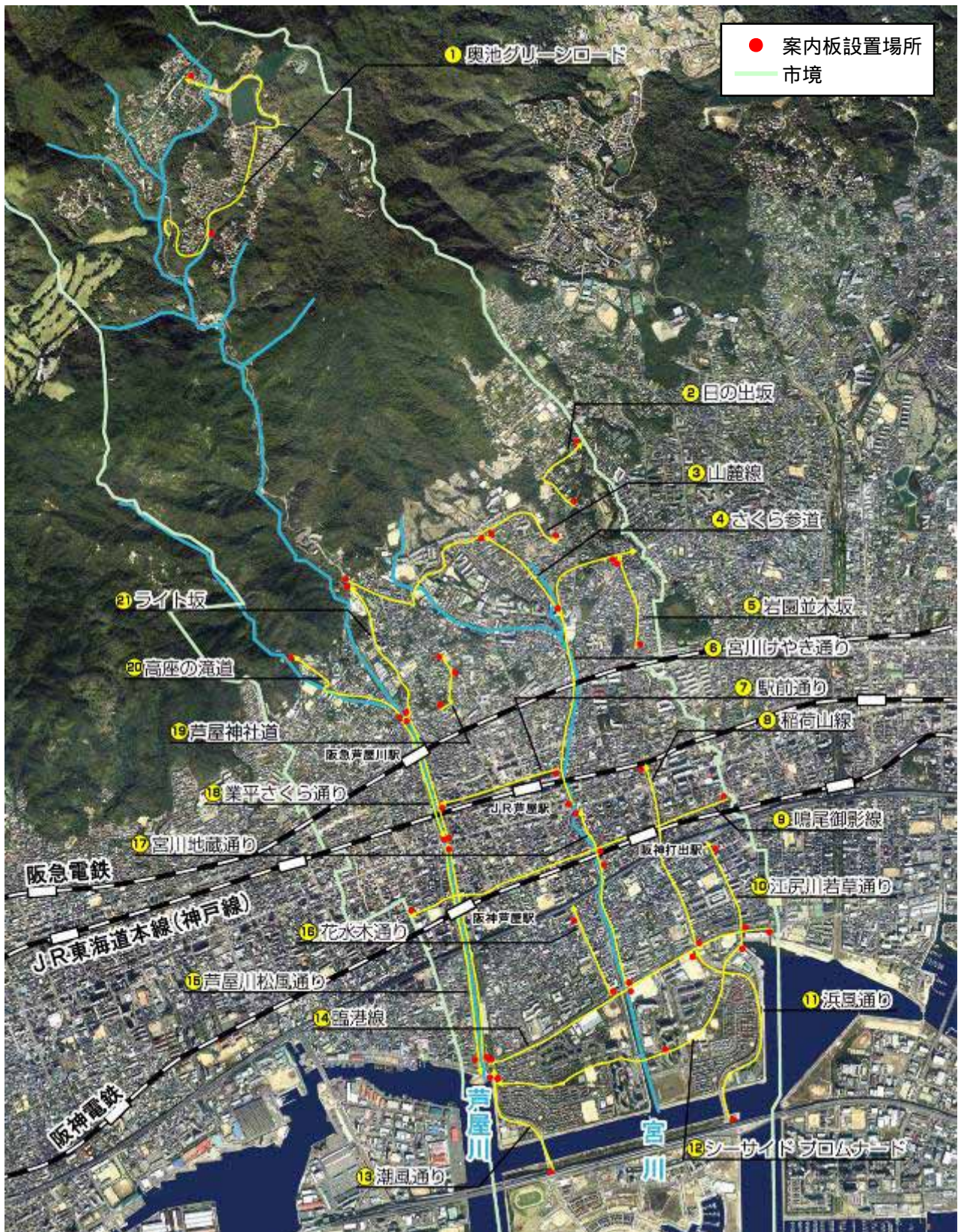
<p>① 芦有ドライブウェイ奥池ハイランド南進入路から、奥池を經由し再び芦有ドライブウェイに出るまでの2.51km。</p>  <p>① 奥池グリーンロード</p>	<p>② 六麓荘^{やそづか}の八十塚橋西から、日の出橋を經由し、西宮市との境までの0.59km。</p>  <p>② 日の出坂</p>	<p>③ 八十塚橋バス停西から芦屋浄水場を経て、県道奥山精道線までの1.85km。</p>  <p>③ 山麓線</p>
<p>④ 岩園交番北三差路（朝日ヶ丘町）から、芦屋霊園前の山麓線に出るまでの0.65km。</p>  <p>④ さくら参道</p>	<p>⑤ 岩園保育所北側の交差点から、宮川けやき通りに出るまでの0.62km。</p>  <p>⑤ 岩園並木坂</p>	<p>⑥ 国道2号の上宮川交差点から宮川線沿いに北へ、岩園隧道を通り西宮市との境までの2.00km。</p>  <p>⑥ 宮川けやき通り</p>
<p>⑦ 宮川線の上宮川橋交差点から西へ、JR沿いに北側の道路を通り芦屋川までの0.80km。</p>  <p>⑦ 駅前通り</p>	<p>⑧ 臨港線の南宮ポンプ場前交差点から国道2号を越え、JRの線路までの1.21 km。</p>  <p>⑧ 稲荷山線</p>	<p>⑨ 春日町西宮市との境から南西へ市立体育館北側の神戸市との境までの2.11km。</p>  <p>⑨ 鳴尾御影線</p>

<p>⑩ 打出浜小学校の北東の交差点から北へ、国道43号までの0.55km。</p>  <p>⑩ 江尻川若草通り</p>	<p>⑪ 浜風大橋から入江を右に見つつ海浜公園プール前から臨港線までの1.43km。</p>  <p>⑪ 浜風通り</p>	<p>⑫ 打出浜小学校の北東の交差点から南西へ、宮川を渡り芦屋川河口までの2.09km。</p>  <p>⑫ シーサイドプロムナード</p>
<p>⑬ 潮風大橋からキャナルパークを越え、芦屋川河口の臨港線まで0.84km。</p>  <p>⑬ 潮風通り</p>	<p>⑭ 西宮市との境の堀切川から西へ、芦屋川までの2.00km。</p>  <p>⑭ 臨港線</p>	<p>⑮ 芦屋川左岸の河口から北へ、業平橋を渡り芦屋川右岸を南へ戻り、河口までの2.80km。</p>  <p>⑮ 芦屋川松風通り</p>
<p>⑯ 臨港線の呉川町信号から北へ、国道43号までの0.60km。</p>  <p>⑯ 花水木通り</p>	<p>⑰ 臨港線の夕凧橋から宮川左岸を北へ、国道2号までの1.11km。</p>  <p>⑰ 宮川地藏通り</p>	<p>⑱ 国道2号業平橋から芦屋川の左岸を北へ、開森橋を渡り川の右岸を南へ戻り、業平橋までの1.59km。</p>  <p>⑱ 業平さくら通り</p>
<p>⑲ 東芦屋町付近の灯籠の東側から始まる坂道を起点とした、芦屋神社までの0.49km。</p>  <p>⑲ 芦屋神社道</p>	<p>⑳ 開森橋から芦屋川右岸を北へ、九十九折の坂道を登り、高座の滝までの1.41km。</p>  <p>⑳ 高座の滝道</p>	<p>㉑ 開森橋から県道を北へ、F.Lライト設計の旧山邑邸(49P参照)を経て山麓線までの0.98km。</p>  <p>㉑ ライト坂</p>



家や学校の周りの愛称道路を歩いてみよう！！

芦屋市道路愛称道路略図



2-3. 私たちの街の祭りや地域の活動

私たちの街は、だんじりをはじめとした伝統文化の生きづく街としての顔、国際的で文化的な住宅都市としての顔など、様々な街の顔をもっています。

また、この街を流れる芦屋川や宮川は、昔から人々の暮らしと深く関わって来ました。川の周辺には遺跡や文化財が点在する他、桜や松のなみ木道があり、多くの物語や文学の舞台になっています。

私たちの街では、芦屋川や宮川、六甲山地などの自然、さらに伝統文化を守り・伝え・育てていく様々な活動が行われています。



だんじりの曳きまわし

2-3-1. 人々が集う芦屋の祭り



芦屋には、さくら祭り・サマーカーニバル（夏祭り）・秋祭りという、大きな3つの祭りがあります。

さくらまつり

芦屋川兩岸いっぱい広がるソメイヨシノのもと、芦屋市民センター付近では、^{ろてん}露店や夜店が出され、夜にはライトに浮かぶ夜桜の下で、多くの人でにぎわいます。



さくら祭りの会場



さくら祭りの会場

サマーカーニバル

夏の花火大会としてすっかり市民の間に定着しています。芦屋浜沖から夜空に次々に打ち上げられる花火は見事で、会場周辺は、盆おどり、夜店などが祭りを盛り上げています。



スイカ割り



花火大会



さくらまつりやサマーカーニバルは市民のお祭りなんだよ！

さくらまつりもサマーカーニバル（夏祭り）も、市民による市民のためのお祭りとして、^{ぼきん}募金やバザーが行われ、ボランティアの協力などにより盛り上げられています。

秋まつり

芦屋では、古くから打出天神社と芦屋神社の秋の祭り^{うちで}で、^{じゅんこう}だんじりの巡行が行われていました。これらは一時中断していましたが、昭和48年（1973年）に「山之町だんじり愛好会」が結成され、現在では秋まつりにて、打出・西之町・山之町・精道・三条のだんじり5台が市内を練り歩いています。

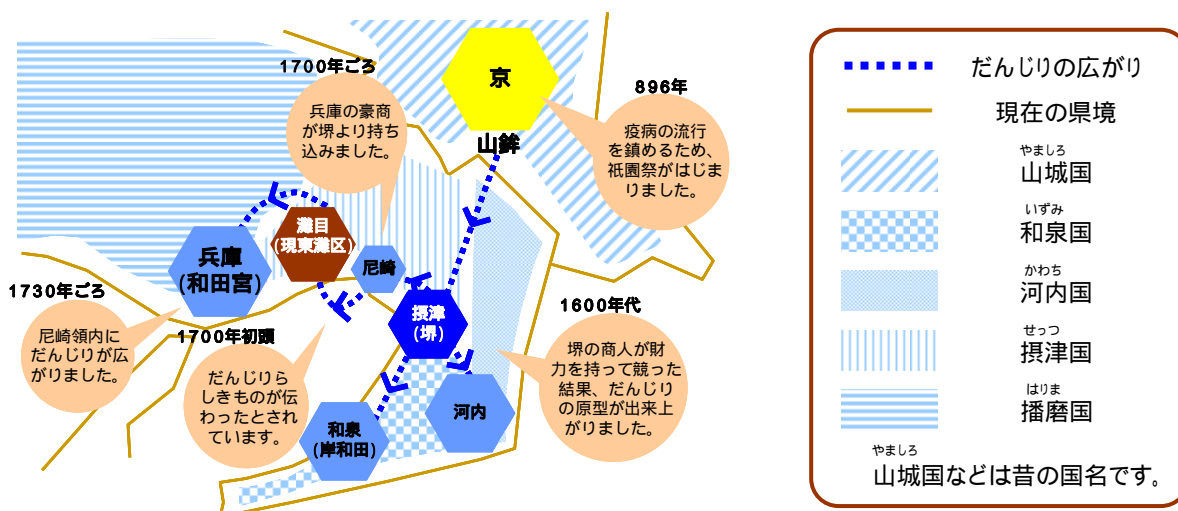


だんじりの練り歩き



だんじりの装飾

芦屋のだんじりは、摂津（現在の堺市辺り）から尼崎を経由して広がり、江戸時代には各村落の祭りにだんじりが練り歩いたようです。



だんじりは、何を願うお祭りなの？

だんじりは、都市では流行する病気が治まるのを願い、農村では収穫の感謝を表す祭りとして広がりました。神戸にだんじりが登場するのは、江戸時代中期1700年ごろといわれています。



だんじりまつりのことを、おじいさんやおばあさんに聞いてみよう！！

2-3-2. 芦屋川や宮川での活動



私たちが毎日眺^{なが}めている芦屋川は、いったん大雨が降ると、すさまじい急流に変わりますが、ふだんは、きれいな水が流れている静かな美しい川です。夏には、川の中に入って遊ぶ子どもたちの姿^{すがた}が見られる他、子どもたちの自然観察の場、市民の憩^{いこ}いの場としても親^{した}しまれています。



芦屋川<春>



芦屋川(自然観察活動の様子)<夏>



宮川でも、自然観察ができるんだよ！

宮川は芦屋川とは様子^{ちが}が違います。市街地を流れる区間は、川幅^{せま}が狭く、兩岸や川底がコンクリートでできているため、生物はほとんど見られません。

しかし、国道43号より下流では、川幅が広くなり、芦屋川に比べ水量も多くあります。

また、潮の満ち引きによって海水が入り込むため、海の魚も見ることができます。(35P参照)



宮川(国道43号より上流)



宮川(国道43号より下流)



家族や友達、みんなで参加してみよう！！

2-3-3. 様々なまちづくり活動



私たちの街には、どんなまちづくり活動があるのかな？

グリーンキッズ

環境省が地域の環境^{かんきょう}に対する学習や活動^{しえん}を支援している「こどもエコクラブ」に参加し、樹木^{じゆもく}調査や自然観察^{しげん}、資源ゴミのリサイクルなどの活動をしています。

各団体活動の様子



クリーン&緑化活動の様子

あしやエコクラブ

ケナフ（環境保全効果が期待される植物）の育成^{しゅうかく}を通じて、市民の環境意識を高め、環境を保全する活動をしています。



ケナフクッキー作り教室

六甲山を活用する会

六甲山魅力再発見市民セミナー^{しせつ}を開くなど、六甲山自然保護センター（周辺施設）を中心に、六甲山についての情報を広める活動を行っています。

<http://www.rokkosan-katsuyo.com/>



各団体のHP

六甲山の自然を学ぼう会

六甲山やその周辺の地域の環境保全に関する事業を行い、自然を大切に作る心を育て、豊かな環境の保全を目的に活動しています。

<http://www.rokkosan-shizen.com/>

ドングリネット神戸

街の緑をふやすために、子供からお年寄りまでの市民ひとりひとりが積極的に、楽しみながら参加できる仕組みとして「ドングリ銀行神戸」を開いています。市民がドングリを拾って預けたり、苗木なえぎを育てたりして、街の緑づくりに参加できます。

<http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/gallery/donguri/intro.html>

兵庫県立 人と自然の博物館

貴重な資料標本とを通して自然・環境に関する生涯しょうがい学習に役立つ「人と自然の共生博物館」を目指し、積極的な活動を行っています。

<http://www.nat-museum.sanda.hyogo.jp/>



(平成25年(2013年)3月時点)



みんなで、まちづくりの活動に参加してみよう！！